

2026年(令和8年)2月25日(水曜日)

青少年育成大館市民会議「青少年の主張」2025より ⑦

私なりの地元への恩返し

秋田職能短大
生産技術科2年 小坂 士



私は北秋田市で生まれ、2年前に家族の転居で大館市に引っ越してきました。大館市は買い物も便利で、遊ぶ場所も多いので、住む場所としては大変気に入っています。私は大館桂桜高校出身で、高校で溶接と呼ばれる技術を最初に学びました。皆さん、溶接とはどのようなものか知っていますか。溶接の「溶」は、ものを溶かすという字で、「接」は接するという字

です。つなげる意味もあり、す。ですので「溶接」とは、ものを溶かしてつなげることを意味します。溶接は自転車や車、橋やビルなどの、骨格や外側の金属をつなげるなど、世界中で使用され、世の中になくてはならない技術となっています。

溶接については、最初は金属を接続するとき「パチパチ」と火花の出るところが、短大では、溶接が持つものづくりの奥深さと可能性、溶接

ちました。その後、飛行機や船などの大きなものを自分で作れると分かり、溶接をもっと学びたくなり、秋田職能短大に進学しました。秋田職能

父と同様に、地元企業で活躍している秋田職能短大や大館桂桜高校の先輩方も知っています。そのため、私は生まれ育った町で、地域の発展に貢献したいと強く思うようになりました。

秋田職能短大で得た知識と経験を活かし、技術を磨くだけでなく、周りの人と協力し

多くなっています。しかし、少子高齢化や若者の市外流出などにより、技術を次の世代に継承することが難しくなっているのが現状です。

私の父も技術者で、地元企業で色々苦勞しながら働いています。父は管理職になった今でも現場の先頭に立ち、さっそうと作業する姿が格好よく、将来は父のように、出世しても現場で働く力を持つ技術者になりたいと思っています。

その企業で働くことになりました。地元で働けることは素晴らしいことで、頑張れば自分のやりがいにもなるし、さらには地域の発展にもつながります。そして、ゆくゆくは溶接の会社を自分で立ち上げたいと考えています。

自分の手で地元の未来を少しでも明るくできるように、これからも持ち前の明るさと元気で努力を続けていきたいと思っています。

(おわり)